

## 令和2年度第5回 小平市環境審議会 会議要録

### 1 日 時

令和3年2月2日（火） 午前10時～正午

### 2 開催方式

Web 会議形式

※大会議室を傍聴のために開放

### 3 出席者

○市長

○小平市環境審議会委員 9名

奥真美会長、中島裕輔副会長、小口治男委員、中川都委員、西村守正委員、服部千春委員、鈴木庸夫委員、小柳知代委員、青山一彦委員

○事務局 15名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

### 4 傍聴者

0名

### 5 議 題

- (1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の策定に係る答申について
- (2) (仮称) 小平市第三次環境基本計画（案）について
- (3) (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画（案）について
- (4) (仮称) 小平市第二次下水道プラン（案）について

### 6 答 申

小平市環境審議会会長より市長に答申

### 7 配付資料

資料1 (仮称) 小平市第三次環境基本計画の策定について（答申）（案）

資料2-① (仮称) 小平市第三次環境基本計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

資料2-② (仮称) 小平市第三次環境基本計画（案）

資料3-① (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

資料 3-②（仮称）小平市第三次みどりの基本計画（案）

資料 4-①（仮称）小平市第二次下水道プラン（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

資料 4-②（仮称）小平市第二次下水道プラン（案）

## 8 内 容

### <議事>

#### (1)（仮称）小平市第三次環境基本計画に係る答申について

（事務局）

資料 1 に沿って説明。

— 質疑なし —

#### (2)（仮称）小平市第三次環境基本計画（案）について

（事務局）

資料 2-①、②に沿って説明。

（委員）

パブリックコメントの実施結果について、反映済みと反映しないとの違いは何か。

（事務局）

反映済みというのは、既に計画案に盛り込まれている内容である。例えば、蓄電池の意見では、計画案に「蓄エネ機器設置費用の助成」の取組や、市民の取組に「蓄電池の導入を進める」などの記載がある。反映するや反映しないは、計画案に記載がなく、新たに盛り込むことができるかどうかを、庁内で検討して判断している。

（会長）

52 ページのコラムについての確認だが、アライグマは外来生物法による特定外来生物に指定されているから写真に㊟が付いていて、ミシシippアカミミガメは外来生物ではあるが、特定外来生物に指定されていないから㊟が付いていないということによいか。

（事務局）

そのとおりである。

#### (3)（仮称）小平市第三次みどりの基本計画（案）について

（事務局）

資料 3-①、②に沿って説明。

— 質疑なし —

#### (4) (仮称) 小平市第二次下水道プラン (案) について

(事務局)

資料 4-①、②に沿って説明。

(委員)

パブリックコメントに、下水道プランを読み、こんなに丁寧に書かれているのに、市民の目にとまることがないのでは、といった意見が出ている。また、パブリックコメントが 1 名だった理由として、しっかり作ったので、気になるところが特に出なかったと捉えているのか、または、もっと関心をもってもらう仕組みが今後必要と捉えているのか。これらの点について、市としてどのように考えているか。

(事務局)

ホームページのアクセス数としては、250 件程度あったが、プランを読んでいる中でご理解いただけたのか、専門性があり難しく感じられ意見が出なかったのか、両方の可能性が考えられる。下水道については、浸水被害について普段から気にされている市民から意見が出る可能性があるが、これまで取り組んできた浸水対策により、直接的な浸水被害が軽減されているのも要因の一つと捉えている。今後も引き続き、下水道事業の PR について積極的に取り組んでいく。

(委員)

今回、緻密に考え作られているので、意見を言うほどでもないが納得した、という意見もあると考える。意見を書かなくても、概ね良くできていると思う、といった簡単なフィードバックがあると行政側としても解ってもらえたといった実感が持てるのではないか。

(事務局)

今後、これらの仕組みが可能か研究していく。

(委員)

環境基本計画やみどりの基本計画に対するパブリックコメントのホームページへのアクセス数は何件か。

(事務局)

環境基本計画については、ホームページのアクセス数は 350 件程度であった。また、素案に対する動画配信も行っており、こちらは 200 件ほど視聴があった。この動画の中では、みどりの基本計画や下水道プランについてもパブリックコメントを実施している旨をアナウンスした。

みどりの基本計画については、パブリックコメント期間の 1 か月間のアクセス数は把握していないが、12 月 4 日時点で 198 件のアクセスがあった。

(会長)

全体を通して 200 件近く、もしくはそれを超えるアクセス数があった。その中から一部の方が意見を寄せている。意見を出すまでには至らなかったとしても関心は低くない。どうして見ようと思ったのか、どういうことに関心があるのかなど、パブリックコメントの手続きとは別の手間はかかるが、簡単なアンケート的な要素も組み合わせて実施できるとよい。

今後、環境の分野だけではないが、パブリックコメントを実施する際に、より関心を引き出していく工夫は必要と考える。

(委員)

パブリックコメントのページで、スマートフォン版は用意したか。

(事務局)

パブリックコメントのページだけではなく、ホームページ全体でスマートフォン版がある。したがって、LINE などの SNS での意見提出はできないが、スマートフォン版で簡単に意見提出ができる。

<答申>

・会長から答申

(会長)

令和 3 年 2 月 2 日小平市長小林正則様。「(仮称)小平市第三次環境基本計画の策定について(答申)」。

令和元年 6 月 3 日付け平環環発第 30 号にて諮問のありました、(仮称)小平市第三次環境基本計画の策定について、当審議会は慎重に審議を重ねて結論に至ったため、別添のとおり答申いたします。

なお、計画の推進に当たっては、次の事項に留意されるよう申し添えます。

- 1 小平市環境基本条例の理念を踏まえた目指す環境像『循環・調和・協働の「わ」を大切に みんなで気持ちよく暮らせるまち こだいら』の実現のために、広く計画の周知に努め、市民・事業者・市民団体・市が一体となり推進すること。
- 2 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく、地方公共団体実行計画(事務事業編)である「エコダイラ・オフィス計画」を本計画に包含した趣旨を踏まえて、市が市民・事業者の模範となるよう、率先して環境施策に取り組むこと。
- 3 脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりや、環境問題に関する社会情勢の変化の速さ等を鑑み、計画の見直し等の対応を適切かつ柔軟に図ること。

以上 3 点を申し添えまして、小平市環境審議会からの答申とさせていただきます。

・市長から挨拶

(市長)

市長の小林正則でございます。

委員の皆様におかれましては、日頃から、当市の環境行政をはじめ、市政全般にわたりまして、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、令和元年6月に諮問させていただきました、次期環境基本計画の策定について、2年間にわたり、丁寧な議論をいただき、答申としてまとめられたこと、大変感謝いたします。本当にありがとうございました。

この2年間は、脱炭素社会や気候変動など、環境問題に対する社会情勢の急激な変化のほか、コロナ禍での取りまとめとなり、さぞ大変なことであったかと推察いたします。

答申いただきましたとおり、目指す環境像である『循環・調和・協働の「わ」を大切に みんなで気持ちよく暮らせるまち こだいら』の実現のためには、市民・事業者・市民団体・市が一体となって、環境施策を推進していく必要がございます。

そのため、市は率先して環境負荷の低減に努めるとともに、市民・事業者・市民団体との連携・協働を密に図り、小平市、ひいては地球環境の保全のために取り組んでまいります。

引き続き、皆様の暖かいご支援をよろしく申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

#### ・委員からの挨拶

(委員)

環境問題に対しては、激変期の1~2年間ではなかったかと思う。その中で、小平市をどのようにしていくかを、一緒に論議させていただいたことをありがたく思っている。2019年度に実施した「小平市の環境に関する市民アンケート調査」では、小平市の一番良いところとして、64.5%の方が「用水や緑といった自然の豊かさ」を挙げている。これを持続させていきたいと思っている。

(委員)

この場で皆さんの意見を聞く中で、学ばせていただくことも多かった。環境問題についての対応や取組は、国や行政が実施するものと、個人が行うものがあると思うが、そのどちらも非常に大切だと思う。感染症で世界中がとても大変な時期であるが、小平市のより良い環境づくりに向けて話し合ってきたことに、一市民として可能な限りこれからも協力させていただきたい。

(委員)

どれだけ第三環境基本計画の策定に貢献できたのか、自信がないが、個人としては大変有意義な経験だった。また、専門家の先生方と違って、個人的な思いだけで俯瞰的な意見が言えなかったのではないかと、少し後悔が残る。小平市は小さい頃から育ったこともあり、プチ田舎という表現が大変気に入っている。小平市は地域エネルギービジョンのおかげで、他の自治体に比べて、小中学校や公共施設にかなり太陽光発電設備が設置されている。その小中学校はいつき避難場所でもあって、地域の方々が避難するところでもある。非常時の太陽光発電設備の利用について

は、エコダイラ・オフィス計画に組み込まれたので、十分な備えをして頂ければと思う。一昨年の台風15号のようなことが、今後、起こらないとも限らない。また、家庭への省エネ・省資源の取組はまだ遅れているところがあると思うので、引き続き、個人としてもこの大切な10年間、できることをこの計画に従って実行していきたい。

(委員)

自分の考えをまとめて、意見や提案をさせていただくことが、うまくできなかったことは少し後悔はあるが、私自身、地球温暖化による気候変動への適応や緩和を考え直すきっかけになった。また、他の審議会委員や事務局の意見など、とても勉強になることが多くあった。この小平市第三次環境基本計画をもとに、子ども達に環境への配慮を引き継いでいき、これからも益々住みやすく、みどりが多く気持ち良く暮らせるまちが、10年間持続していったらよいと思った。

(委員)

私は事業者の立場で、ごみの問題を非常に気にかけていて、今回の小平市第三次環境基本計画の中に盛り込まれている範囲がすごく広いのが、とても印象的でした。細かすぎてやるよりはかえって良かったという気持ちがある。この計画をもとに、小平市をこれからも住みやすいまち、暮らしやすいまちにできればよいと思う。

(委員)

私は小平市民ではないが、所属する大学が位置している近隣市ということで、小平市の環境特性をより詳しく、審議会を通して知ることができた。また、地域や行政の方々と新たな人脈も得ることができて、すごく貴重な機会をいただいたと思っている。環境の変化が大きな時代になっているが、答申にも書かれているように、柔軟かつみどり豊かな小平市を将来世代に渡って引き継いでいくという基本を、今後もしっかり進めていくことを期待している。

(委員)

私は昨年4月の人事異動によって、前任から引き継いで委員となり、実質的には4回ほどの審議にしか参加することができなかったが、まず驚いたのは、3つの計画を同時に審議していくということだった。かなりボリュームがあって、委員の方が資料を見るのも、事務局の方が準備するのも大変だったと思う。市民や民間企業の方々と連携して、計画に沿った施策を進めていただくことを非常に期待している。また、答申文や市長の挨拶にもあったように、特に気候変動、CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた動きというのは、国際的にもスピードが上がってきているので、計画にも記載をされているが、社会情勢の変化に応じて適宜、計画のバージョンアップを図っていただければと思う。

(委員)

今回の環境基本計画はハード面から市民参加などのソフト面まで、幅広い理念を包含した内容

になったと思う。特に市民を巻き込む仕掛けとして、市民版環境配慮指針や環境家計簿アプリなど、独自の取組は継続して更に発展させていってほしい。中でも、地域エネルギービジョンに関わる温暖化対策の脱炭素の分野などについては、コロナ禍で急速にテレワークの普及や、室内環境対策など、情勢の変化が大きい状況にある。新しい生活様式と言われるが、そういったニューノーマルと言われるものも、今後どうなるのかまだわからない面も多いので、答申の留意事項にも記載されているように、基本的な理念は変えないながらも、その実施内容や評価項目などについては、情勢に応じて適宜見直しを行っていくことは非常に重要だと思う。防災や教育といった、他の部署との連携というのも重要と考えているので、柔軟に対応いただいて、よりよい環境を構築していただくことを期待したい。

(会長)

委員の皆様にはそれぞれの立場で、非常に活発な、また貴重なご意見を多々いただき、本日答申をまとめ上げ、無事に市長にお渡しすることができたことを心より御礼申し上げます。事務局においても、3つの計画を同時進行で見直すということで、苦労も多かったと思うが、委員の意見もしっかりと受け止め、計画案に手直しをして良いものに仕上げてください。

市長におかれては、この計画は、市民や事業者の立場から取り組んでいただきたい内容が盛り込まれていて、アクションプランという要素も兼ねているので、実行性のあるものとして、しっかり推進していただきたい。そのためには、市民や事業者と、この計画を共有し、同じ方向を向いて、今後の10年に向けて、走り出していただければと思う。

まだ感染症が収まらない中で、今後どのように世界経済状況が変化していくのか、推移していくのか、不透明ではあるが、気候変動、プラスチック、食品ロスなど、環境問題はまったなしの状況なので、歩みを止めるわけにはいかない。特に気候変動の問題を考えると、脱炭素社会を目指すところは、世界共通の目標になっている。その中で、小平市として具体的にどういうビジョンを持って、2050年の脱炭素に向けて歩いていくのか、ぜひ市長にリーダーシップをとっていただいて、歩みを着々と前に進めていっていただきたい。今後の展開を楽しみにしているので、よろしく願います。

(市長)

私は市民活動に身を置いたことがあり、身近な生活を見直す活動を広めてきた。市民や事業者が、環境問題を自分ごととして捉えることが大切だが、環境分野はととても幅広く、総論、理想論に終始して自分の足元が見えない人もいる。

環境問題については、市民は被害者となる一方で、加害者になっているケースも多い。ごみは生活の中から出ているが、きちんと分別をすれば、大半は再生可能である。自分の生活のあり方を考えていくことが大事だと思う。

事業者側においては、我々の生活で、生産、流通、消費を止めるわけにはいかないものの、コロナ禍で産業活動が停滞して、結果的には脱炭素にかなり貢献しているという皮肉な結果が出ている。とはいえ、コロナの終息後、産業界の活動が今のままでいいというわけにはいかない。世

界の潮流として、脱炭素は揺るぎのない方向性になっている。

市としては、答申をしっかりと受け止めて、市民や事業者、大きなところで言えば国や東京都と連携しながら、互いに課題を共有して、身の丈にあった取組をしていきたい。

長い間、ご審議本当にありがとうございました。